

P1

韓国と日本における相互文化都市の比較：韓国アンサン市と日本浜松市を中心に

P2 目次

1. 相互文化都市の概念および発展の背景
2. クロ区と浜松市の事例
3. まとめ

P3 1. 相互文化都市の概念および発展の背景

P4 1 相互文化都市プログラムの概観

2008年ヨーロッパで開始された都市レベルの内・外国人住民の相互文化主義実践ネットワーク

欧州評議会が主管のプログラム

ヨーロッパを超え北米アメリカ、オセアニア、アジアなどの都市が参加する国際都市ネットワーク

P5 2 会員都市の現状

2022年11月10日基準

156か所の都市が加入

9つの細部ネットワークが結成

アジアーアセアニア

ケベック（カナダ）

イタリア

モロッコ

スペイン

ノルウェイ

ポルトガル

ウクライナ

イギリス

P6 3 相互文化都市加入のメリット

都市レベル

移民者のキャパシティを地域社会発展のための資産として活用する方法を学習できる

移住の時代に適合した都市発展のための戦略樹立ノウハウを習得できる

国際社会に通用する指標に基づいて都市の強みと弱みを容易に把握できる

国際社会に都市認知度を高めさせられる

#### P7 4 相互文化都市加入のメリット

国家レベル

既存の多文化政策の限界を克服した相互文化政策の拡散

地域（都市）単位での移民政策の機能向上

移民者に対する一般人の偏見および反移民感情の緩和

全国多文化都市協議体の発展ビジョン提示の容易化

#### P8 5 相互文化都市加入のメリット

国際社会レベル

世界的な問題解決のための関心と参与度拡大が可能

国家の立場を前に出さなければならない中央政府より、果敢に実用的な協力推進が可能

多様な階層（学界、政界、財界、市民団体など）の参加が可能

#### P9 6 相互文化都市加入のデメリット

国際業務の過重→専門とする人材の必要性

費用の発生（会員都市会費、会議参加など）

西欧社会が開発した指標を適用する際、東洋的価値の損失憂慮

→東洋（アジア）社会に適した指標開発の必要性

#### P10 7 相互文化都市の指標

特性 客観的指標と主観的指標で構成

客観的指標は人口構成、経済状況、制度的特徴などの測定

主観的指標は市民の都市生活満足度および憂慮度、集団意識、社会的紐帯などの測定

多様な文化が共存する状態の測定ではなく、お互いほかの文化的背景のある人々が相互作用するよう誘導する環境と、実際に相互作用している頻度の測定

#### P11 8 相互文化都市の指標

例) 文化はどれほど相互文化的であるか

a)一つ以上の民族的グループからの人を含むメンバーシップのある都市のスポーツ、芸術、そしてレジャー協会の比率

b)その協会の内、明白に多様なメンバーシップを保持していたり相互文化的性質の活動を運営したりしている教会の比率

c)市議会が協会と計画者に補助金を割り当てるとき、相互文化主義を評価基準として使用しているか

d)都市の文化的なイベントのうち明白な相互文化的目標を掲げるイベントの比率

#### P12 相互文化都市の指標

例) 最近7日間、住民が会話(簡単な「こんにちは」という挨拶よりたくさん)をした人の比率

a)自身とは異なる宗教を信仰する人

b)自身とは異なる民族出身の人

c)自身とは異なるヨーロッパ内の国から来た人

d)自身とは異なるヨーロッパ外の国から来た人

#### P13 相互文化都市プログラムの発展背景

推進背景

多文化政策に対する批判の構造

先住民文化は“多数文化＝主流文化＝優秀な文化”であり、

移民者文化は“少数文化＝非主流文化＝劣等な文化”という雰囲気形成

ヨーロッパの失業率増加と財政赤字の深刻化により政府の移民者福祉支援に対する反対世論の増加→外国人嫌悪主義者の増加

移民者の立場からも多文化政策が移民者に対する偏見を助長しているという不満が拡散

#### P14 相互文化都市プログラムの発展背景

推進背景

相互文化主義の普及

2000年代にヨーロッパの高官が開発した“相互文化主義”の伝播意図

ヨーロッパの生活空間である都市から、相互文化主義の具体的な実践戦略とアイデア発掘を通じてヨーロッパ全域に拡散を誘導

#### P15 相互文化都市プログラムの開始

推進過程

ヨーロッパ評議会とヨーロッパ連合の協力のもとにプログラム開発

相互文化都市を建設しようとする際、当国の意思と建設努力により都市環境が改善される程度を測定することに焦点を置いた相互文化指標の開発

プログラム広告および公募都市別相互文化性の評価

11つの優秀都市を相互文化都市プログラムパイロット都市として制定

P16 相互文化都市プログラムパイロット都市

図1 相互文化都市プログラムパイロット都市（2008-2010）

P17 相互文化都市プログラム参加方法

参加手続き

参加希望都市申請書受付

書類審査

相互文化性を測定する質問紙に候補都市が返答して書類提出

質問紙主要内容は相互文化に関連した教育、近所関係、公共サービス、ビジネスと労働市場、

仲裁と葛藤解消、新規移民者の歓迎、リーダーシップと市民意識などで構成

訪問実査

P18 相互文化都市プログラムの拡散

参加都市の拡大

2年間1段階パイロットプログラムが成功に終わると参加希望都市が増加

一部国家で国際ネットワークと別個で国内相互文化都市ネットワークの結成

→イタリア、ノルウェイ、ポルトガル、ウクライナ、オーストラリア、モロッコ、イギリス、カナダケベック州

ヨーロッパ外地域都市のプログラム参加許容

2017年アジア都市（日本浜松）参加開始

2020年韓国のアンサン市、クロ区加入

P19

2. クロ区と浜松市の事例

P20 1 アジア地域都市の相互文化都市加入

日本

・浜松市

2012年第二回アジアーヨーロッパ相互文化都市シンポジウムが浜松市で開催

アジア都市として最初に相互文化都市加入

・神戸

現在加入手続き進行中

P21 2 アジア地域都市の相互文化都市加入

大韓民国

・アンサン

2020年2月加入（137番目）

・クロ

2020年8月加入（141番目）

参考 2020年クロ区相互文化都市担当職員インタビュー

## P22 3 アンサン市の事例

### 都市概況

韓国最高の外国人密集居住都市

2021年12月基準、人口735,412名中82,686名（11.2%）の外国人人口

近隣に半月工團 始華工團などの大規模工場地帯があり、そこに就業する外国人労働者がウォンゴク洞一体に居住開始

2009年ウォンゴク洞一体を多文化特区として指定し、多文化教育、飲食店、お祭りなどを総合した観光都市として育成

## P23 3 アンサン市の事例

### 加入過程

2019年末相互文化都市加入 TF チーム構成

2020年2月18日137番目相互文化都市に加入→韓国の都市では初めて

## P24 4 アンサン市の事例

### 発展

2020年8月相互文化都市の評価で最上位圏記録

人口50万人以上、外国人住民10%~15%の都市

人口50万人以上である26か所の都市の内4位、外国人住民10%~15%である35か所の都市の内4位

## P25 5 アンサン市の事例

### 関連事業

2009年外国人住民センター 開所→2019年外国人住民支援本部として改編

1本部2課6チーム24名勤務

外国人住民政策課；外国人住民政策、在韓同胞、多文化特区支援

外国人住民支援課；外国人住民福祉、地球村文化、外国人住民教育

2012年多文化学習広報館 開館→2015年世界文化体験館として名称変更

2014年アンサン多文化コミュニティセンター（現 相互文化コミュニティセンター）開館

## P26 6 日本浜松市の事例

### 都市概況

日本の多文化共生先導都市

約 80 万人の人口の内 25,000 名（3%）の外国人居住

ホンダ、ヤマハ、スズキなど多国籍企業の所在地

工場勤労者確保のため 1980 年から外国人人材の受容

→主に日系ブラジル人

## P27 7 日本浜松市の事例

### 加入背景

2000 年代初めから外国人住民政策遂行の必要性認識

2001 年外国人住民委員会設置

2001 年共生のためのご近所ミーティング開設

2002 年ブラジル出身日系人の子供の教育のための学級準備

## P28 8 日本浜松市の事例

### 加入過程

2012 年日本でアジアーヨーロッパ相互文化都市代表会の開催

2013 年浜松市“相互文化都市ビジョン作成”

2016 年ヨーロッパ評議会開催の国際会議に出席した浜松市長からヨーロッパ評議会での相互文化都市加入意志に関する質問→可能性の打診開始

2017 年浜松市相互文化都市会員都市加入

2018 年浜松市二次相互文化都市ビジョン作成

## P29 9 日本浜松市の事例

### 関連事業

浜松市相互文化センター(HICE)運営

多国語生活相談、共同体共存モデルプロジェクト、国際理解のための教育推進プロジェクト、相互文化的統合のための社会的事業訓練、メンタルヘルス相談

メンタルヘルス専門家を雇用し成人うつ病、子供の自閉症など専門的に支援

ポルトガル政府と合意しポルトガル語専門家による相談支援

浜松外国人住民学習支援センター運営

外国人住民日本語および日本文化学習支援

内国人住民にむけたポルトガル語授業の提供

## P30 相互文化都市の評価点数(1)

P31 相互文化都市の評価点数(2)

P32 相互文化都市の評価点数(3)

P33 3. 結論

P34 1 アンサン市と浜松市の共通点

共通点

外国人支援専担機関（部署、センター）を通じた専門的な外国人政策の推進

多文化的特性を地域発展資産として活用

日本語、日本文化、苦情相談を中心とした外国人支援

P35 2 アンサン市と浜松市の相違点

相違点

アンサン市予算は国費＋都費＋市費の結合である反面、浜松市は大部分が市費

韓国多文化政策は中央政府の政策ビジョンと目標が地方に下達される方式で開始された  
反面、日本の多文化共生政策は地方で自発的に展開され開始

アンサン市は管内外国人の生活便宜と社会統合の支援に焦点を置いている反面、浜松市は  
国際交流と国際化を重視

韓国多文化政策は韓国人の家族構成員である多文化家族支援事業の拡張方式で発展した  
反面、日本多文化共生政策は国境を超越した国際化または人権的側面からの接近

P36

ありがとうございました